

令和6年3月1日

第237号

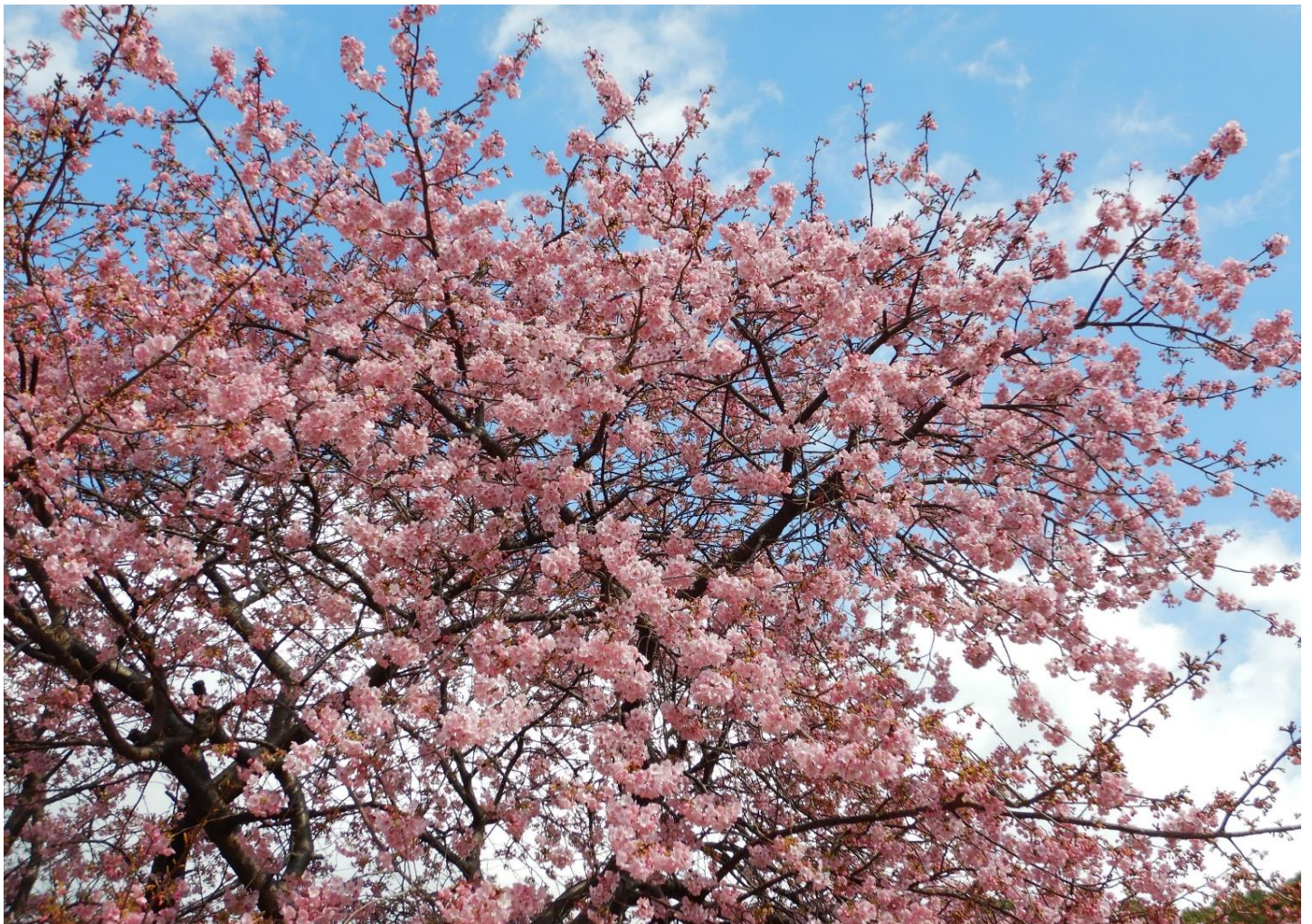
# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158  
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



早咲きで有名な河津桜（静岡県河津町） 伊豆森林管理署

令和5年度森林・林業技術等交流発表会	技術普及課・・・2
赤谷の森から（20周年を迎えた赤谷プロジェクトの取組）	
	赤谷森林ふれあい推進センター・・・5
山地災害対策緊急展開チームの派遣	企画調整課・治山課・・・9
農林水産業のいとなみと鉄道フォトコンテストの受賞作品	企画調整課・・・10
森林管理署等から	・・・・・・・・・・・・・11
森づくり最前線 磐城森林管理署 遠野森林事務所 森林官	鵜野 哲郎・・・14

# 令和5年度森林・林業技術等交流発表会の開催

## 技術普及課

関東森林管理局では、森林・林業技術等交流発表会を開催しています。民有林・国有林双方の取組により得られた技術成果などを多くの関係者で共有・普及することを目的としています。今年度で68回目となり、都県、市町村、林業事業者、学校関係者など延べ350の方が参加され交流を図りました。

今年度は、関東森林管理局大会議室を会場に4年ぶりの対面開催（スライド発表や特別講演の様子は当日のみオンライン配信）として、2月15日と16日に開催されました。

多くの方にご参加いただくため、スライド発表の発表概要とポスター発表の内容を関東森林管理局ホームページで事前に閲覧ができるようにしました。また、発表者への応援メッセージを投稿できるようにしました。

発表会には、森林管理局・署等の職員のほか、地方自治体、研究機関、大学、民間企業、学生などからスライド発表18課題、ポスター発表23課題の計41課題の発表がありました。

発表会2日目には、株式会社竹中工務店木造・木質建築推進本部副本部長の花井厚周氏による「中高層木造建物の現状と今後の展開について」と題した特別講演が行われました。

スライド発表の審査は、山梨県森林総合研究所の長池卓男氏をはじめ有識者6名からなる審査委員会により行われ、最優秀賞1課題、優秀賞5課題、奨励賞3課題が決定されました。長池審査委員長からは、「チャレンジングな発表が多かった。森林技術者として、過去の失敗を繰り返さず色々なチャレンジをしながら、それを評価していくためにも、情報共有・情報交換していただきたい」「どのようなプロセスを経て課題解決に導いていくかが大切。この発表会は、それを情報交換するとても有意義な場だ」などの講評がありました。

一方、ポスター発表は、職員から選ばれた推薦者によりグッドデザイン賞2課題、グッドコンテンツ賞2課題、グッドコアタイム賞2課題、特別賞2課題が決定されました。

参加された皆様に心より感謝を申し上げます。今後とも交流発表会を通じて新たな技術や研究成果の普及に努めてまいります。



発表会場



スライド発表



ポスター発表

スライド発表の受賞者

表彰	課題番号	課題名	所属	発表者及び共同発表者	部門
優秀賞	S1	時系列LANDSATデータを用いた足尾荒廃地における緑被率の推移と治山事業	関東森林管理局 治山課	田中 裕貴 諸星 智之	森林保全部門
優秀賞	S2	小滝川源流域の大規模崩壊地における復旧治山事業について	上越森林管理署	合津 菜々実 吉川 徹	森林保全部門
	S3	弟島におけるオガサワラグワ保全の取組	小笠原諸島森林生態系保全センター	森 満輝	森林保全部門
	S4	葉山島保安林回復プロジェクト	東京神奈川森林管理署	鈴江 卓也 小檜山 諒	森林保全部門
	S5	シカ柵（パッチディフェンス）の効果検証について （着手報告及び今後の検証計画について）	埼玉森林管理事務所	関 清孝	森林保全部門
優秀賞	S6	玉ねぎネット単木保護の実用化に向けた取組について	群馬森林管理署	松井 琢郎 山本 啓介	森林技術部門
	S7	大苗植栽による下刈省略の実証試験	塩那森林管理署	宮澤 司 金澤 裕子 里見 昌記	森林技術部門
	S8	大苗・特定苗・コウヨウザンを用いた下刈回数削減の検証について	茨城森林管理署	村上 周 君嶋 昭弘 木口 未来	森林技術部門
優秀賞	S9	冬下刈による下刈作業省力の可能性	森林技術・支援センター	中山 優子 平尾 翔太 仲田 昭一	森林技術部門
	S10	収穫調査業務の簡素化をめざして	下越森林管理署	熊丸 慧	森林技術部門
奨励賞	S11	積雪寒冷地への早生樹「センダン・ユリノキ」の適応性について	福島県南会津農林事務所	○五十嵐 正徳 福島県会津農林事務所 澁谷恵子 NPO法人会津の森林を育む協議会 島田正義	森林技術部門
	S12	尾瀬木道の劣化状況について	群馬県林業試験場 木材係	芳士戸 啓	森林技術部門
	S13	列状間伐の2回目の伐採方法について	会津森林管理署	高鷲 淳一 角川 美咲 高柳 修延	森林技術部門
奨励賞	S14	360度カメラとドローン撮影による3Dモデルの検討	下越森林管理署	内海 洋太	森林技術部門
奨励賞	S15	GPSを活用したシカ道の図化と効果的な捕獲について	群馬県立農林大学校	石黒 青	森林技術部門
	S16	都県と連携した市町村森林・林業行政への技術的支援	関東森林管理局 技術普及課	須貝 栄 高氏 均	森林ふれあい・ 民国連携部門
最優秀賞	S17	広葉樹利用の新たな可能性に向けた取組について	静岡県東部農林事務所 森林整備課	鈴嶋 康子	森林ふれあい・ 民国連携部門
優秀賞	S18	安全な森林環境教育を目指して ～ボランティアと連携した取組事例から～	高尾森林ふれあい推進 センター	久保 武典 木皿 仁志	森林ふれあい・ 民国連携部門



スライド発表受賞者



ポスター発表受賞者

ポスター発表の受賞者

課題番号	課題名	所属	発表者及び共同発表者	部門
P1	衛星通信を活用した遠隔現場について	大井川治山センター	齋藤 秀樹	森林技術部門
P3	OWLを用いた収穫調査簡略化の可能性について ～簡易な計測方法の検証～	森林技術・支援センター	平尾 翔太 中山 優子 仲田 昭一	森林技術部門
P4	治山事業におけるICT建設機械の導入について	静岡森林管理署	伊佐 雅暁 沼口 暁	森林技術部門
P5	シカ嗜好性誘引飼材を用いた錯誤捕獲防止対策の取組について	群馬森林管理署	黒田 隆 山中 恋	森林技術部門
P6	シカに食べられない苗木を求めて ～オオバアサガラの魅力～	日光森林管理署	野口 光三	森林技術部門
P7	防草シートを活用した下刈の省略化に向けた取組	棚倉森林管理署	滝川 和葉 鈴木 浩	森林技術部門
P8	下刈作業時期の違いによる苗木の生長について	千葉森林管理事務所	池田 一穂	森林技術部門
P9	苗場山ブナ天然更新試験地クロニクル	中越森林管理署	富沢 葉子	森林技術部門
P10	伊豆署におけるノウサギ捕獲の一考察	伊豆森林管理署	町野 弘明	森林保全部門
P11	低密度生息地域のニホンジカ生息状況と課題について ～センサーカメラによるモニタリング調査結果から～	福島森林管理署白河支署	内山 弘敬	森林保全部門
P12	電気止め刺し機を自作してみた	利根沼田森林管理署	須藤 洋一 五十子 碧	森林保全部門
P13	福島森林管理署が取り組む獣害対策 ～ニホンジカに対峙する者達～	福島森林管理署	坂本 英男 佐藤 史佳	森林保全部門
P14	山梨県におけるナラ枯れ被害対策に関する一考察	山梨森林管理事務所	荒井 亮一	森林保全部門
P15	間伐材利用促進モデル地区における木製治山構造物の現状について—木製治山構造物のこれからを考える—	関東森林管理局 治山課	田中 裕貴	森林保全部門
P16	屋根型路盤作設による災害に強い道作りについて	天竜森林管理署	太田 紗菜	森林保全部門
P17	流域の人々の暮らしを守る田代山の治山対策	会津森林管理署南会津支署 関東森林管理局 治山課	○筒井 建伍 ○中島 俊和 篠原 直生	森林保全部門
P18	山地災害復旧事業現地検討会を実施してみた	関東森林管理局 治山課	○丸山 寿隆 東京事務所 板倉 寿美次	森林保全部門
P19	環境放射線モニタリング10年 —森林の放射性物質はどこに—	森林放射性物質汚染対策センター	伊藤 秀晃	森林保全部門
P20	アカマツ・カラマツ人工林の林齢に沿った多面的機能の変化	山梨大学生命環境学部 環境科学科	藤村 泰詩 向井 真那	森林保全部門
P21	中之条町立六合中学校によるシラネアオイの植栽・保全活動	吾妻森林管理署	中國 昭博 上村 武士	森林ふれあい・ 民団連携部門
P22	赤谷プロジェクトの環境教育に関する取り組み	赤谷森林ふれあい推進センター	神垣 崇郎	森林ふれあい・ 民団連携部門
P23	村上支署における地域林業等への貢献	下越森林管理署村上支署	石田 伸次	森林ふれあい・ 民団連携部門
P24	スマート林業の推進 ～GISの普及およびスマートフォンアプリの活用～	磐城森林管理署	佐藤 桂太	森林ふれあい・ 民団連携部門

# 赤谷の森から

(20周年を迎えた赤谷プロジェクトの取組)

赤谷森林ふれあい推進センター

群馬県みなかみ町に位置し、新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林（通称：赤谷の森）について、「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画」（以下「赤谷プロジェクト」）に基づき、官民協働で管理・運営を行っています。

この運営は、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、公益財団法人日本自然保護協会、関東森林管理局の三者により進められています。

今回は、2003年（平成15年）のスタートから20年目の節目を迎えた赤谷プロジェクトの取組の一端を紹介するとともに、2月3日に開催された「赤谷プロジェクト20周年記念報告会」についてご紹介します。

## 1. 20年目を迎えた赤谷プロジェクトの活動内容と成果

多様な自然環境を有する赤谷の森において、赤谷プロジェクトが目指すものとして次の2点を掲げ、これまで様々な活動に取り組んできました。

### ①生物多様性の復元

赤谷の森には、地形や地質、気候などに応じて様々な動植物が生息・生育しています。赤谷プロジェクトでは、これら森林生態系の保全や復元を目指した取組を行っています。

例えば、人工林から自然林へ復元するため、人工林を伐採し、光環境や空間を確保することで周辺の自然林を構成する多様な広葉樹に誘導していく取組などを行っています。

また、生態系の頂点に位置するイヌワシの生息環境を改善・維持していくために、人工林を伐採し、イヌワシの狩場となる開放空間を創出する取組も行っています。取組を開始した2015年以降、これまでの10年間に創出した狩場面積は約6haとなっており、イヌワシの繁殖が3回成功しています。



新たな狩場となった伐採地



伐採地付近で狩りをするイヌワシ

### ②持続的な地域づくりへの取組

イヌワシの狩場創出のために伐採した箇所から搬出された木材は、イヌワシ木材と名を付けて加工され、地元の宿泊施設のカウンター用材としても利用されています。また、みなかみ町が発祥の地とされるカスタネットの材料として、ヤマザクラやブナなどの広葉樹材を提供しています。

さらに、赤谷の森を訪れる児童や生徒、一般の方を対象にした森林環境を活かした体験学習や自然散策を場の提供をしています。森の豊かさによって得られる様々な恵みを活用して、持続的な地域づくりを目指した取組を進めています。



ブナやコナラの二次林での自然散策



自然林復元試験地での勉強会

赤谷の森における取組や成果は、広報誌「赤谷の森だより 20周年記念号」にて詳しく紹介していますので、次のQRコードからご覧ください。



[https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/news/20thanniversary.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/news/20thanniversary.html)

## 2. 赤谷プロジェクト 20周年記念報告会

みなかみ町カルチャーセンターを会場として、一般参加者や地元関係者、赤谷プロジェクトの活動に参画している赤谷サポーターなど、全国から137名の方が参加しました。

関東森林管理局からは、人工林の伐採とその後の植生回復の状況、イヌワシの狩場創出と繁殖状況など20年間における取組を報告しました。みなかみ町からは、赤谷プロジェクトがきっかけとなって始まった「みなかみユネスコエコパーク」と、その理念を基に実施された地元小学生への木育や森林環境教育などが紹介されました。日本自然保護協会からは、企業版ふるさと納税を活用した「みなかみネイチャーポジティブプロジェクト」の活動、赤谷プロジェクトの活動内容から発展した様々な取組が紹介されました。

また、赤谷プロジェクトの次の10年に向けて、地元の自伐型林業者や山岳・自然ガイド、地域の仲間を牽引し、地元の活性化に日々頑張っている地域協議会の方々から、赤谷プロジェクトへの期待を述べていただきました。

参加者には、森林環境がもたらす恩恵と自然環境の維持が地域の暮らしの発展に寄与することを改めて認識いただけたと思います。



関東森林管理局による報告



みなかみ町による発表



日本自然保護協会による発表



地域協議会メンバーによる発表



次の10年に向けた意見交換



会場入口に設置されたイヌワシのわらアート

さらに、みなかみ町の小学生が自然環境について発表する「環境学習発表会」が同時開催されました。赤谷センターでは、20周年を振り返るポスター展示や、カスタネットの加工をする際の端材を使った「木のかけらストラップづくり」などの体験ブースを設置しました。コロナ過が明けて4年ぶりの対面開催となったこともあり、参加した子供達は思い思いの作品を創り、たくさんの笑顔に包まれました。



赤谷プロジェクトのポスター展示



木のかけらストラップづくり

20周年の節目を迎えた赤谷プロジェクトですが、2つの目標（生物多様性の復元、持続的な地域づくり）は未だ道半ばです。今後も、赤谷プロジェクトの取組に賛同いただける方々、赤谷プロジェクトから発展した取組を進める地元のみなかみ町、地域住民の皆様と連携を図りながら、さらなる活動に取り組んでまいります。



赤谷の森だより

[https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/kouhoushi/kouhoushi.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/kouhoushi/kouhoushi.html)



赤い谷のブログ

[https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/akayablog/blogtop.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/akayablog/blogtop.html)

## 今月の表紙

## 河津桜（静岡県河津町）

河津桜は、昭和30年頃、河津川沿いの冬枯れの雑草の中で芽吹いていた約1メートルの若木が発見者の庭先に植えられたことが始まりです。その後の調査で新種の桜とわかり、昭和49年に「河津桜」と命名されました。河津川沿いには約850本の河津桜が咲き、町全体では約8,000本が咲いています。



河津桜の原木



菜の花と河津桜



河津川と桜並木



## 山地災害対策緊急展開チームの派遣

### 企画調整課・治山課

令和6年1月1日の能登半島地震により、石川県能登地方で多数の山地災害が発生し、人命、人家、公共施設等に甚大な被害を与えました。二次災害の発生防止と早期復旧が求められている中、石川県から林野庁本庁を通じて、集落や公共施設の背後にある森林や治山施設の点検、山地災害発生箇所の現地調査等について技術的支援の要請がありました。

これを受け、関東森林管理局においては、山地災害対策緊急展開チームの派遣を決定し、令和6年2月16日、森林管理局局長室において、派遣者の出発式を行いました。

志知局長から「体調に気を付けるとともに、現地の状況をよく確認し、災害対応に当たっていただきたい。また、今回の災害対応で学んだ知見を持ち帰って今後の業務に活かしてもらいたい」との激励の言葉があり、派遣者から「被災地の復旧が一日でも早いものとなるよう、対応してまいります」と決意が述べられました。

関東森林管理局からは、2月19日から22日まで、3月4日から8日までの2回にわたり2名を派遣し、石川県輪島市と珠州市の民有林において現地調査等に当たります。



局長（写真左）の激励を受ける

派遣者の治山課民有林治山係長 萩原伸也さん（写真中央）

## 農林水産業のいとなみと鉄道フォトコンテストの受賞作品

「農林水産業のいとなみと鉄道フォトコンテスト」は、都市住民や国内外の観光客の皆様にも、関東地域には都心から少し足を延ばせば魅力的な農林水産業のいとなみがあり、高度に発達した鉄道網などを利用することで素晴らしい景観に簡単に出会えることを知ってもらうため、平成28年度から開催されています。

この度、令和5年度の入選作品が決定しました。「林業・里山のいとなみ」と「鉄道・路線バス」の魅力がよく表現されていると認められ、関東森林管理局長賞を受賞した石井宏武氏の作品を紹介します。

### 【関東森林管理局長賞】



### 「ゆく秋」

(撮影場所：茨城県久慈郡大子町 JR水郡線)

撮影者：石井 宏武 氏 2023年11月

入選作品は関東農政局のホームページから確認できます。

<https://www.maff.go.jp/kanto/press/kikaku/240229.html>

令和6年度「農林水産業のいとなみと鉄道フォトコンテスト」の作品を募集中しています。

応募締切：令和6年12月31日（火曜日）当日消印有効

撮影期間：令和6年1月1日～12月31日

応募及び問い合わせ先

関東農政局企画調整室内フォトコンテスト係

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1

電話：048-740-0312（平日9時から17時まで）

詳しくは関東農政局ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/kanto/kikaku/photocontest.html>



## 森林管理署等から

令和5年度における森林管理署等の取組を紹介します。

### ～会津森林管理署南会津支署～

#### ～地域の人々とともに～「南郷地域文化祭」

南会津支署の庁舎は、福島県南会津町の中でも旧南郷村にあります。旧南郷村では、毎年11月3日「文化の日」に、古くから「南郷地域文化祭」を、南郷体育館を会場として開催しています。

当日の朝、体育館に隣接するグラウンドをゴール地点とする健康マラソン大会が行われ、幼い子供(親子マラソン)から年配者に至るまで、良い汗を流しつつ文化祭へと突入します。

この文化祭は、有名な南郷刺し子の展示実演、華道クラブによる華麗な生け花の展示、保育園児・小学生・中学生の絵画作品や書道作品の展示、ミニプラネタリウム・アロマスプレー作り、舞踊、ハンドベル演奏、若者たちのバンド演奏までと、老若男女が楽しめる、盛りだくさんの内容となっています。

私たち南会津支署も、地域の人々との交流の場として、「木工クラフト&しおり作り」のワークショップを出展しました。

職員が山仕事の現場で集めた小枝の輪切りやマツボックリ等を材料とした「木工クラフト」、職員が作成したカエデの押し葉などを材料とした「しおり作り」では、子供たちが動物を模したものやミニクリスマスツリーなどバラエティに富んだ作品を楽しそうに作っていました。また、「毎年しおり作りをするのが我が家の恒例行事。とても記念になります」と話された女性が印象的でした。

前日の会場設営から、終了後の会場内の片付け・清掃まで、署員も地域の皆様とともに作業に当たり、旧南郷村民(南会津町民)としての充実した時間を過ごしました。



作品づくり



出来上がった作品

## ～吾妻森林管理署～

### 森林保険センターとの合同 OJT 研修

9月21日～22日の2日間にわたり国立研究開発法人森林研究・整備機構森林保険センターと吾妻森林管理署との合同 OJT 研修を実施しました。

実施に至った背景としては、当署長の前任地が森林保険センターであったこと、森林保険センターに UAV 活用についての WEB 研修をお願いしたことがあること、森林保険センターの若手職員が林業現場になじみがなく伐採作業等を見たいという要望があることがあります。

研修の内容は、治山工事、高性能林業機械を使った伐採と丸太搬出、製材工場や木質バイオマス発電施設の視察という盛りだくさんです。特に、フェラーバンチャザウルスロボによる伐採作業、プロセッサによる造材作業を実際に見てもらいました。製材工場では、森林管理署職員が訪れるのは数年ぶりということで、社長が熱く語ってくれました。木質バイオマス発電施設は研修参加者になじみがなく、興味をもって見聞きしたようです。

これまではコロナの影響があり、このような研修を控える向きがありました。が、森林・林業に携わるものとして、川上（造林、伐採）の状況だけでなく川中（木材の加工・流通）、川下（木材の需要）についても広く勉強していく必要があります。

なお、今回せっかくの合同 OJT 研修であったにもかかわらず、森林保険センターと森林管理署の職員の間で意見交換する時間を設定できなかったことが悔やまれました。



治山えん堤の工事現場



プロセッサによる造材



木質バイオマス発電施設

## ～群馬森林管理署～

### シカ食害対策手法の公開

群馬森林管理署では、シカ食害対策の取組として「安価な玉ねぎ包装用ポリネットを利用したシカ食害対策単木保護の作成手順、仕様、設計図」を公開しております。

ライセンスフリーですので、どなたでも自由に利用できます。

改良していただいてもかまいません。

また、改良したものを再配布してもかまいません。

こちらのホームページからどうぞ

<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gunma/torikumi.html>



玉ねぎ包装用ポリネットの設置例



玉ねぎ包装用ポリネット

## ～下越森林管理署～

**職場体験プログラム**

9月5日、6日、7日の3日間、就業体験実習を通じ大学生等の職業意識を醸成するとともに、国有林野事業に対する理解を深めることを目的として、職場体験プログラムを実施しました。今回は、応募のあった新潟大学（農学部・経済学部）3年生の2名を対象として実施しました。

初日は、財産管理の基本となる境界巡検（国有林と民有林の境にある標示杭を確認する業務）と、ニホンジカ被害対策の一環で設置しているセンサーカメラの確認とデータの回収を行いました。学生から「土地の境界に石やコンクリート製の標があり、毎年一つ一つ確認しているとは思わなかった」「センサーカメラのデータ回収や映像データの確認等は大変な作業だ」等の感想がありました。

2日目は、収穫調査（森林の材積の計測業務）として、標準地を設定し直径や樹高を測定する器具を用いた調査を行いました。また署内では森林3次元計測システムの説明を受けました。「標準地のデータを基に全体を推測することが新鮮だった」「先進機器により効率的な作業が可能となり、正確性の向上も期待でき興味深い」等の感想がありました。

最終日は、治山工事の監督業務として、設計書どおりに構造物等が施工されているか測定しました。また、海岸沿いにある松くい虫被害地である飛砂防備保安林で、数年前植栽したアカマツの生育状況を確認しました。「工事を発注したら業者に任せるだけでなく、発注者が関わる部分が想像より多く、責任の大きさを感じた」「箇所ごとにアカマツの生育に大きな差があり驚いた。保安林の育成が、毎回成功するとは限らず、林業の難しいところと感じた」等の感想がありました。その後、若手職員らと意見交換等を行いました。

学生から「様々な業務を体験し、大変有意義であった。今回の経験を進路選択や今後の大学での学習に生かしたい」「体験前は、林野庁にそれほど興味があったわけではないが、認識が変わった」等の感想があり、このプログラムの目的をわずかですが達成できたと考えております。



収穫調査の体験



治山工事の監督業務

## 森づくり最前線

磐城森林管理署 遠野森林事務所 森林官 鶴野 哲郎

当事務所は、福島県いわき市遠野町を中心とする国有林約3,800haを管轄しています。付近にはスパリゾートハワイアンズがあり、温暖な気候で降雪量は少なく、年間を通して森林施業が可能です。人工林はスギ、ヒノキが主で生育良好、製品生産事業や造林保育事業などが盛んです。私自身初めての森林官として昨年4月に配属され、様々な請負事業体との調整や監督のため現場を歩き回っています。

天然林もありますが野生動物をあまり見かけず、ツキノワグマ（以下「クマ」）は分布していないとされ、確かにクマ剥ぎ等の森林被害を確認していません。昨年は、クマの出没が全国で相次ぎ、いわき市内でもめったに見かけないクマの目撃情報があり、ニュースになりました。

昨年は、台風13号に伴う記録的な大雨で林道等に大きな被害が出ました。過去の東日本大震災や令和元年台風19号による被害がいまだに残る場所があります。しかし、地元住民や自治体、事業体の協力もあり徐々に復旧が進んでいます。

日照時間が長いため、太陽光発電施設をよく見かけます。また、隣の合戸森林事務所との境界では風力発電施設工事が進められており、ブレード1枚が長さ約50mの大型風車が建設されています。貸付地として業務対応していますが、近くで見るとその大きさに圧倒されます。



製品生産材



湯ノ岳パノラマラインから海を望む



風車発電施設

管内の名物スポットとしてクマガイソウの群生地があります。絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、クマガイソウを守る会によって管理されています。5月上旬から中旬頃が開花のピークですが、昨年は訪れるのが遅くなり、残念ながら満開のクマガイソウを見逃してしまいました。

遠野森林事務所管内の豊富な人工林を活かして植栽、保育、伐採の循環を安全かつ効率的に実施し、環境問題や林業の活性化に貢献できればと思い業務に取り組んでいます。

余談ですが、クマガイソウとは言うものの、浜通りはクマガイナサソウ…。



花期を終えたクマガイソウ



現場監督する筆者